

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0471500298
法人名	(株)東北医療福祉システムズ
事業所名	グループホーム やすらぎ苑古川
所在地 (電話番号)	大崎市古川小野字一ノ坪43番101 (電話) 0229-27-2661
評価機関名	特定非営利活動法人介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成 19年 11月 19日

【情報提供票より】(19年 10月 25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 7月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 15 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 15 人	

(2) 建物概要

建物形態	併設/○単独	新築/改築
建物構造	木造	造り
	2階建て	1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	38,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,230	円	

(4) 利用者の概要(10月 25日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	4 名	要介護2	5 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	2 名	要支援2	名		
年齢	平均 78.6 歳	最低	54 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	たんぼぼクリニック・塩沢整形外科・星陵病院・有馬歯科
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、田、畑、自然に囲まれた小高い丘で環境に恵まれている。地域との付き合いも深く、防災訓練、町内清掃、会食等に積極的に参加している。苑の夏祭りには50人も人が集まって盛大に行われた。「やすらぎ苑通信」を2ヶ月に1回発行し、地域の方にも配布している。今年初めてターミナルケアを経験しており、関係者、医師との連携もスムーズに運べ、全員で方針を共有し、ケアに当たることが出来た。災害時に備え(夜間想定も含め)2ヶ月に1回避難訓練を実施している。現管理者になって1年7ヶ月と日も浅いが、地域との関わりを重点に取り組んでいる。「苑」全体が健康で楽しく、明るくやっていくことを目指している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善課題として「苦情相談の受付先である第三者委員を定めていないので第三者の方に委嘱してそれを重要事項説明書に明記すること」とされていたが、第一回運営推進会議の際メンバーの区長さんに話しをし、現在交渉中である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価表を事前に全職員に配布し、書いてもらったものを管理者とユニットのリーダーでまとめている。自己評価で見出された問題点は全職員で検討し、その結果を運営推進会議に報告し、さらに意見をいただき、改善に向け取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	10月15日に開催された運営推進会議で「災害時の対応について」が提案され、各委員からこの苑として地域に協力をお願いすることについて討議された。①地域の方々の理解と協力をいただく ②建物周辺の道路が狭く空き地がないため環境整備が必要ではないか ③外に出ないで苑の中での避難訓練をしてみてもいい ④電気、水、寒さ防止対策は絶対必要 ⑤発電機が必要、等の意見が出された。現在出来るものから取り組み中である。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	玄関には意見箱を設置している。家族には来訪時や家族会等で意見、不満、苦情の把握に努めているが、重要事項説明書に市町村と第三者委員の相談窓口が掲載されていない。重要事項説明書に市町村と第三者委員の相談窓口を掲載し、外部にも意見、不満、苦情を表せる場があることを繰り返し説明することをお願いしたい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入している。地域との付き合いも深く、防災訓練、町内清掃、会食等に積極的に参加している。また苑内で行われる夏祭りには近所の人、ボランティア、友達など50人も人が集まって盛大に行われたり、グループホームの1日体験の呼びかけや講師を招いて認知症の予防やサポーターの講習会を開いている。「やすらぎ苑通信」を2ヶ月に1回発行し、地域の方にも配布している。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念であり、地域密着型サービスの意義を職員全員が理解しており、地域との関係性を強化し、地域での日常生活の継続を目指した具体的な分かりやすい理念になっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の申し送りやミーティング、日々の関わりの折に職員全員で唱和し、共有を図っている。新人には理念を説明し、理解してもらっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入している。地域との付き合いも深く、防災訓練、町内清掃、会食等に積極的に参加している。苑の夏祭りには50人も人が集まって盛大に行われた。グループホームの一日体験の呼びかけや、講師を招いての認知症の予防やサポーターの講習会も開催している。「やすらぎ苑通信」を2ヶ月に1回発行し、地域の方にも配布している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価表を事前に全職員に配布し、書いてもらったものを管理者とユニットのリーダーでまとめている。自己評価で見出された問題点は全職員で検討し、その結果を運営推進会議に報告し、さらに意見をいただき、改善に向け取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自己評価で明らかになった課題、外部評価で要改善となった課題について報告され検討されている。前回(10月15日)に開催された運営推進会議で「災害時の対応について」が提案され、各委員からこの苑として地域に協力をお願いすることについて討議された。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	大崎市の「安心介護相談員施設」の指定を受けていて毎月2回、市の担当者が苑を訪問している。市役所に行った際、事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝えている。市では外部評価への出席をするなど、よきパートナーとして互いに積極的に協力し合っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に写真、アルバム、ビデオなどを見せながら様子を知らせている。また全ての家族に毎月1回手紙で入居者の健康状態を伝えており、その際金銭出納帳も一緒に送り確認印をもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関には意見箱を設置している。家族には来訪時や家族会等で意見、不満、苦情の把握に努めているが、重要事項説明書に市町村と第三者委員の相談窓口が掲載されていない。	○	重要事項説明書に市町村の相談窓口の電話番号を掲載するほか、第三者委員を運営推進会議の委員にお願いし、外部にも意見、不満、苦情を表せる場があることを繰り返し説明することをお願いしたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新しく入った職員には入居者一人ひとりの特徴をわかってもらうように、又、入居者にもきちんと紹介し早くなじみの関係が作れるように時間をかけて引継ぎをしている。管理者がヘルパーの講師をしていることもあり、「やすらぎ苑古川」での実習生がそのまま職員として採用されることが多い。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人当たり年2～3回の研修の機会がある。研修内容は報告会を開き全職員に報告している。又、資格取得を目指す職員には勤務時間を調整するなどして支援している。職員には常に上を目指すように話しており、年1回は本人の思いを紙に書いて提出してもらっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム連絡協議会、ケアマネージャー協会に加入している。研修友達や近くのグループホームの職員とも相談したり、勉強会をするなどしてサービスの質の向上を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に管理者とユニット長が入居者の家を訪問し話を聞いているが、家族の希望ですぐにサービスを利用する方が多く、入居後に家族の方やこれまで関わっていた関係者に面会にきてもらうなどして、徐々に馴染みながら本格的な利用に移っていけるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	朝は職員と一緒に頑張って掃除をしたり料理を作ったり、盛り付け、後片付け、洗濯物の干し、たたみ、買い物、畑仕事などを行っている。昔の料理を覚えてもらったり、野菜の育て方を覚えてもらったりとお互いに支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中から、入居者はうまく表現できないが本人にとって重大なこと、思い、希望、意向などお互いの信頼関係が出来るまで時間をかけて把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の情報や欲求の把握をし、本人や家族の意見、要望を聞き、職員全員でケア会議で検討し、プランを立てている。出来上がったプランは家族に提示し、署名押印を受けている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヵ月後に介護計画の遂行状況や効果などを職員全員で評価している。又、入居者の状態の変化や状況、家族、本人の要望に応じて見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	基本的には訪問診療を受けているが、それ以外の通院や外泊は家族にお願いしている。特別な外出は職員が支援している。緊急時で自宅介護が困難な時などはその状況に応じて柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医、医療機関に受診できるように支援している。管理者が以前看護師の仕事をしていたこともあり医療連携体制はうまくいっている。家族にも専門的な知識で話をし、納得していただいている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「ターミナルケアに関する指針」としてその方針が記されており、重度化や終末期を迎えた場合に事業所が対応できるケアについて本人や家族に説明し「意思確認書」を取り交わしている。今年初めてターミナルケアを経験しており、関係者、医師との連携もスムーズに運べ全員で方針を共有し、ケアに当たることが出来た。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	本人を尊重した呼び方をしている。了解を得ないで居室への出入りをしていない。人前で恥ずかしい思いをしないように目立たない言葉かけ、対応に配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の生活のリズムに配慮して、起床、入浴、食事時間を本人なりのペースで行えるよう柔軟に対応している。朝遅く起きて来た人には食事時間をずらしてゆっくり食べてもらっている。又、昼食後から夕方までに全員が入浴している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みに応じて食材は発注している。食事は職員も一緒に同じ食卓を囲み同じものを食べている。親と一緒にいるような和やかな雰囲気であり、さりげないサポートをしている。又、食事の準備、後片付けも一緒にやっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	これまでの生活習慣や好み、希望に合わせて毎日入浴できるようにしているが、昼食後から夕方までの時間帯に入浴するように定めている。現在は夜間入浴の希望はない。	○	朝や夜間入浴の希望があったときなど一人ひとりの希望にあわせて何時でも入浴できるような体制を検討していただきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の手伝い、畑仕事、花の水遣り、カーテン閉め、新聞取り、ごみ出し、掃除、洗濯物の干し、たたみ等それぞれが役割を持ち、楽しみを作り出せるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は散歩、買い物、ドライブ、花見、新緑狩り、芋煮会、りんご狩りなど一人ひとりの希望に合わせて戸外に出掛けられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関に鍵をかけていない。声がけをしたり、一緒について行く等して自由な暮らしを支援している。近所の人にも一人で歩いているところを見つけたときには知らせてもらうようお願いしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	近所の人達にも参加していただき、2ヶ月に1回(夜間想定も含め)消防署の職員の指導を受けて避難訓練を実施している。避難場所の確認、避難通路の確保、消火器設備の点検、緊急用品の常備なども定期的に点検している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量をチェックしている。メニューは苑の看護師がチェックしている。尚、栄養バランスについては市の保健所の管理栄養士に依頼し、指導を受けるようお願いしたい。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の居室、共用空間は日当たりも良く、明るく、適温管理を行っている。換気が行われ臭気や空気のよどみがない。壁には季節感を取り入れた装飾(例えばクリスマス)を心がけ、入居者と一緒に作り飾っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋の壁には絵画や家族の写真が飾ってあったり、仏壇が置いてあり、毎朝お線香を上げる人があったり、本人にとって居心地のよい場所となっている。又、毎日面会に来て午前中を過ごしていく家族の方に昼食を用意するなどの支援をしている。		